



VOL.55

「桂川っ子」の文字は、
 桂川中学校美術部員が
 デザインしたものです。

生活リズムの乱れから・・・

桂川中学校 校長 安永保之

今日は、深夜徘徊等の防止についてをお願いを申し上げます。つい先日になりますが、中学生の喫煙が発覚しました。未成年の喫煙は法に触れます。また、健康面や心に影を落とすことを見逃すことはできません。未成年者喫煙防止法では、未成年と知りながらタバコを販売した者には罰則が科せられます。最近の新聞記事に「外で吸わなければと考え、家庭内での喫煙を許可していた」という親が逮捕されたとありました。

調査の中で、未成年の喫煙に共通していることは、夜の徘徊等の中で行われていたということです。労働体系が変化した社会で家庭生活時間も影響を受け、子どもの就寝時間が遅くなっています。夜に遊んで帰りが遅い。

外泊しても問題にされていないかと思えます。夜11時以降の子どもを外出は補導の対象となりますが、生徒や保護者にとつては罪悪感や非行意識の少ない行動かもしれません。

非行は突然にやってくるものではなく、生活のリズムの乱れから、いつのまにか喫煙や不登校、犯罪へと結びつきます。そのため、青少年育成条例で深夜徘徊や無断外泊を禁止するべきだという自治体もあります。

「うちの子に限って」、「うちの子は違う」という意識を捨てて、お子さんの健康や規範意識を育んでいただきたいと存じます。

これからも学校は、「家庭・地域・学校一体となった子どもの育成」に精一杯取り組んでまいりますので、よろしくお願ひします。

良いことは意識的に努力を

桂川町教育委員会
 教育長 穂坂和義

気温の低下とともに、イチヨウやケヤキ、桜などの紅葉が舞い散り、庁舎の吹き溜まりにかなり積もっています。

それだけなら風情があつてなかなかいいのですが、心配なのは落ち葉に交じつてお菓子やビニール袋、ジュースの空き缶などがかなり多く混じっていることです。休日明けでもない平日にもそれが目立ちます。

もちろん、これらのごみを町内の子どもたちが捨てたとは限りませんが、その他にも最近気になるようなことがいくつかあるのです。

たとえば、通行を禁止されているはずの場所を通り抜ける自転車を持たま見かけるようになりましたし、学校の窓ガラスが何者かに割られるという事件も断続的に発生しています。また、ごく一部ではありますが、登下校中の服装や態度に乱れたものを感じますし、あいさつをしても無視されるなど、何となく嫌

な予感とでもいいますか、不安を拭い切れないうつです。

学校の荒れは一足飛びにやってくるものではなく、いくつかの段階があるので、初期対応が何より大事であると言われています。

全体的には落ち着いていて、平静を保っている現段階における最も有効な手立ては、管理を強化していくことではありません。みんな良い方向を目指して努力し、目に見える成果・手ごたえを感じさせていくことにあります。

本町では、望ましい生活習慣の定着に向けて「あいさつ・声かけ」や「早寝・早起き・朝ごはん」、「二日一善」運動に取り組んでいますが、いまひとつ手ごたえが感じられません。

運動が、掛け声やその場だけの行事消化に終わっては意味がありません。良いこと・望ましいことは意識的に努力しないと身に付きませんし、成果も出ません。学校や家庭での意識的な努力や励ましを期待しているところです。